

令和 8 年 度 国 語 (03コア)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子は問題23ページです。別に、マークによる解答用紙~~マーク~~、記述による解答用紙~~記述~~各1枚をセットで配付します。
3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙~~マーク~~・~~記述~~をミシン目で折ってていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
解答用紙~~マーク~~の受験番号欄は、右を参考に記入してください。
4. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
5. 解答用紙~~マーク~~はすべてHBの黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
6. 解答用紙~~記述~~は、HB以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
8. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
9. 使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

例 受験番号が
0 6 3 7 のとき

受験番号				
千位	百位	十位	一位	
0	6	3	7	
0	0	0	0	0
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6
7	7	7	7	7
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9

良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

一 問(三)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(四)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(五)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(七)

1	2	3	4	5	6	7	8
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧

二 問(三)

a	b	c	d	e
①	②	③	④	⑤

問(四)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(六)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

三 問(二)

	1	2	3	4
A	①	②	③	④
B	①	②	③	④
C	①	②	③	④
D	①	②	③	④
E	①	②	③	④
F	①	②	③	④

問(三)

	1	2	3	4	5	6
a	①	②	③	④	⑤	⑥
b	①	②	③	④	⑤	⑥
c	①	②	③	④	⑤	⑥

問(六)

1	2	3	4	5	6
①	②	③	④	⑤	⑥

問(七)

1	2	3	4
①	②	③	④

問(八)

1	2	3	4
①	②	③	④

四 問(一)

	1	2	3	4
a	①	②	③	④
b	①	②	③	④

問(二)

1	2	3	4
①	②	③	④

問(四)

1	2	3	4
①	②	③	④

問(五)

1	2	3	4
①	②	③	④

03コア

受験番号			

一

問(一) 1

2

3

4

5

ま

問(二) P

Q

R

問(六) I

II

III

二

問(一) 1

2

3

4

5

問(二) ア

イ

ウ

エ

オ

問(五) I

II

III

三

問(一) 1

2

3

き

問(四)

問(五)

四

問(三)

令侍人重賜文君侍者

総点	
----	--

評点	
----	--

評点	
----	--

評点	
----	--

評点	
----	--

評点	
----	--

評点	
----	--

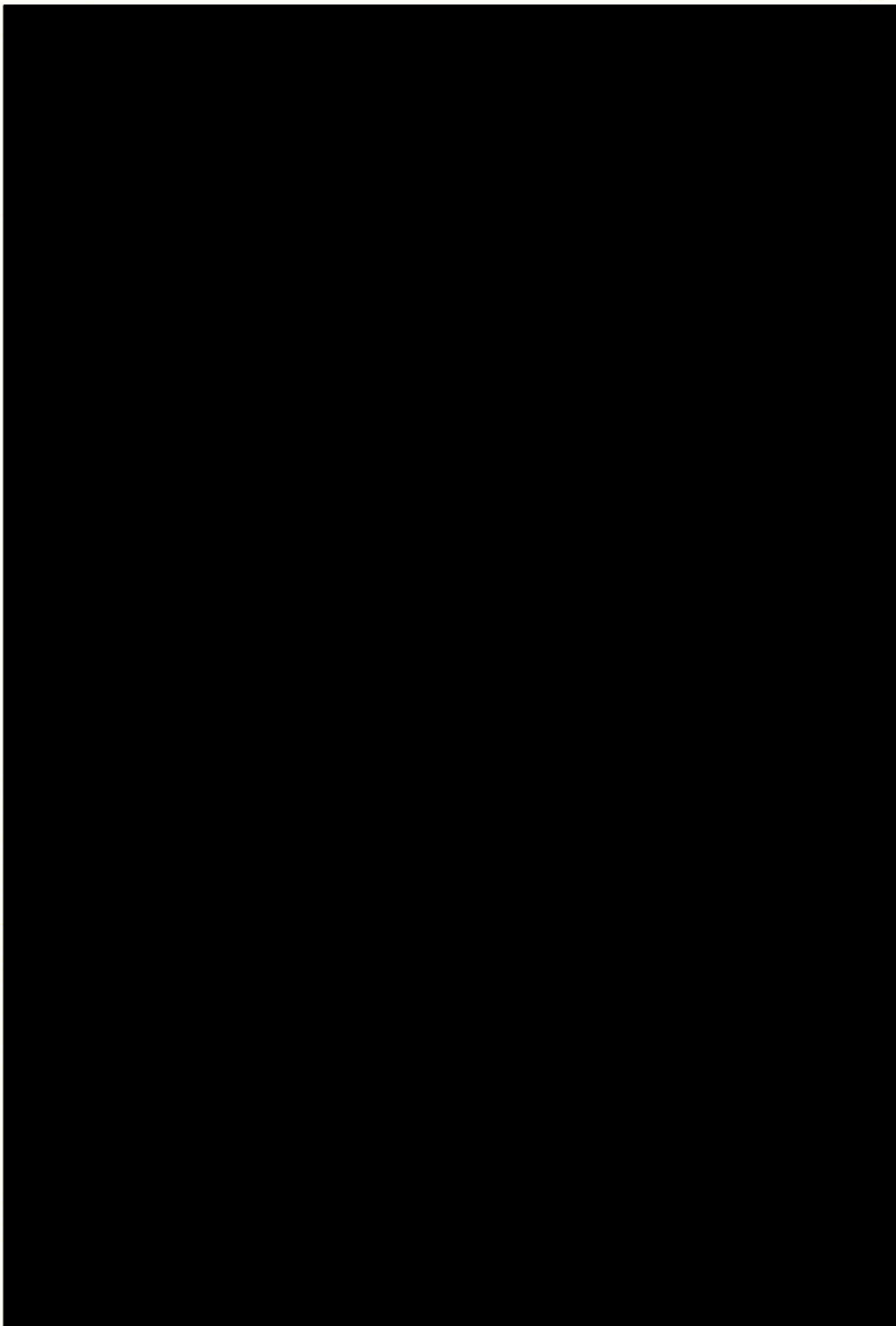
評点	
----	--

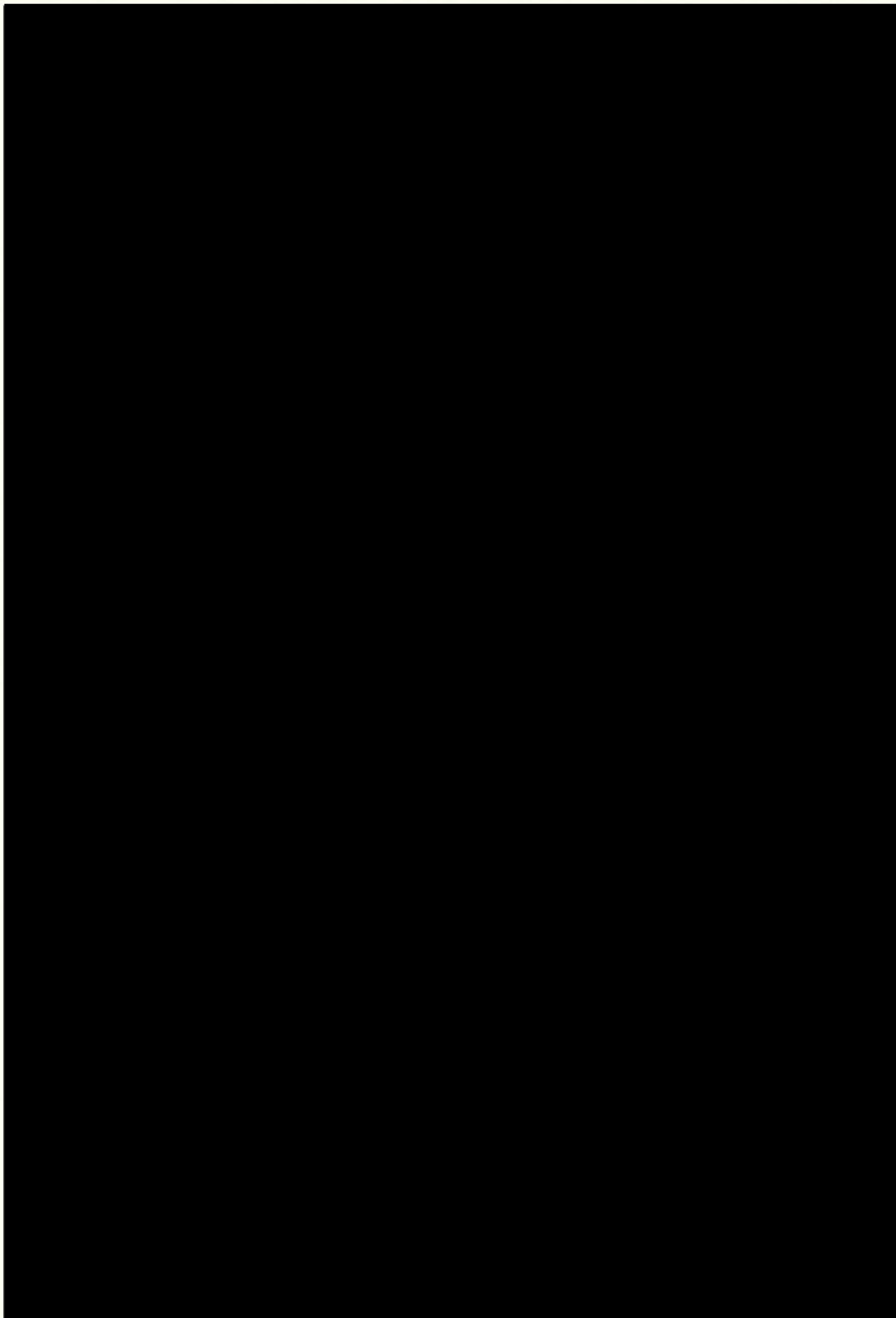
評点	
----	--

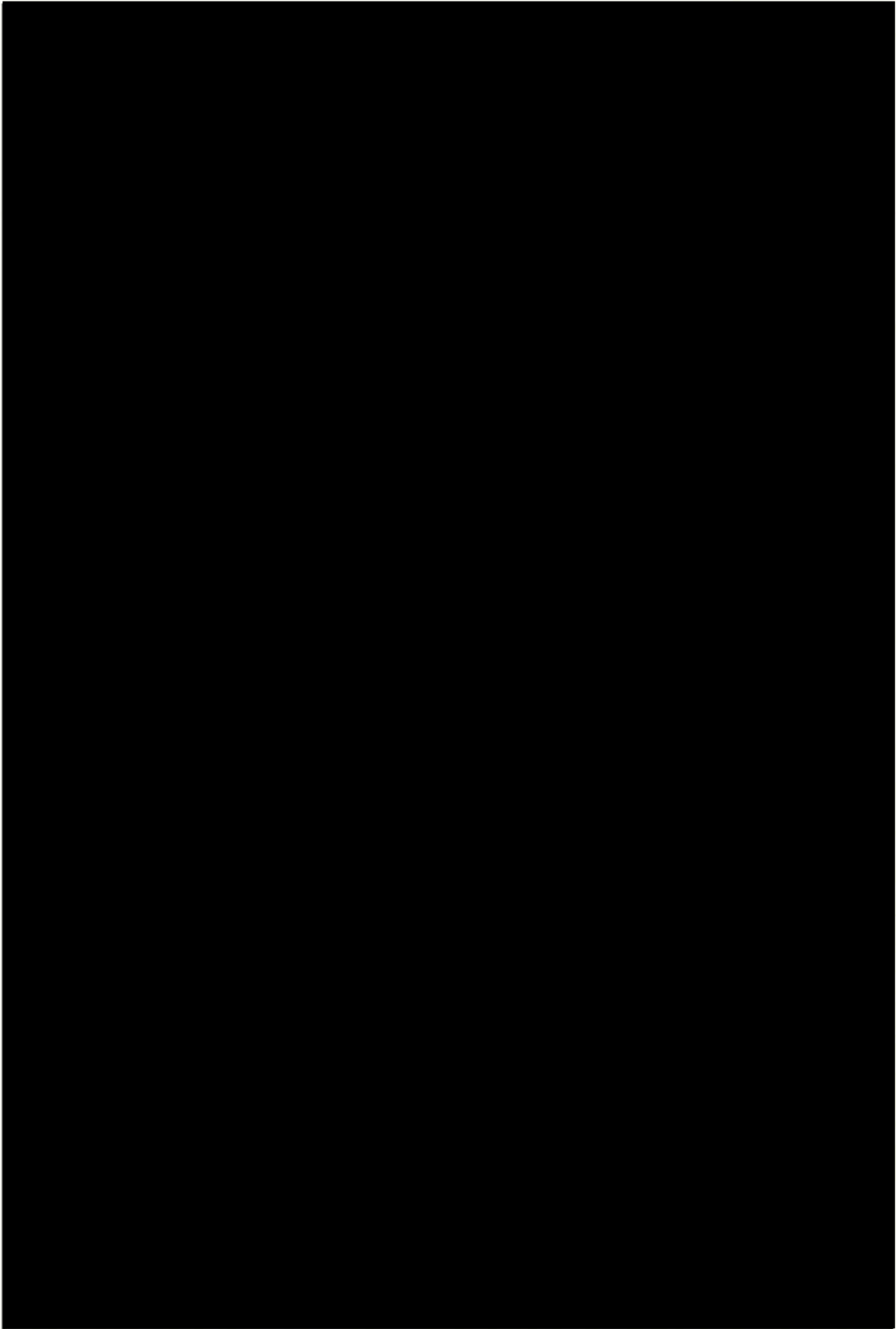
評点	
----	--

評点	
----	--

問題は次のページより始まります。







(注) プラットフォーマー企業、グーグルなどの、インターネット上でその基盤（プラットフォーム）となるサービスやシステムを提供したり、または運営する企業。 コラボレーション共同作業、共同制作のこと。

〔問題〕

(一) 傍線部1～5の片仮名を漢字に直して、解答欄に記入しなさい。〔解答用紙記述〕

(二) 空欄P～Rに入るもつとも適切な漢字一字を、解答欄に記入しなさい。ただし、同じ漢字は入りません。〔解答用紙記述〕

(三) 空欄①に入るもつとも適切な表現を、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙記述〕

- 1 必然ではない
- 2 偶然ではない
- 3 合理的ではない
- 4 必要悪ではない
- 5 結果論ではない

(四) 傍線部Aに「専門職としてのこだわりだったものがただの習慣と化し、身になじんだ日常動作を原則と誤解すること」とあります。こうした事態をどのように表現したらよいでしょうか。もつとも適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マ〕

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 上下変動 | 2 他力本願 | 3 朝令暮改 | 4 本末転倒 | 5 優勝劣敗 |
|--------|--------|--------|--------|--------|

(五) 傍線部Bに「名目は立たない」とあります。本文の意味としてもつとも適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙カ〕

- 1 合理的な判断は下せない
- 2 実質的な合意は得られない
- 3 理由らしい理由は示せない
- 4 ふさわしい名称はつけられない
- 5 ぴったりの宣伝文句は存在しない

(六) 傍線部Cに「デジタル革命の姿がはっきりと見えてくるにつれ、私たちはむしろ確信を強めている。ジャーナリズムがジャーナリズムであるための条件は今後も受け継がれるというだけではない。誰もがニュースを制作し発信できる時代だけに、これまでよりもっと重視されるのだ」とあります。次の文章は本文の論旨を踏まえて、それを説明したものです。空欄Ⅰ～Ⅲに入るものとも適切な箇所を、本文の中から指定の字数でそれぞれ一つ抜き出して、解答欄に記入しなさい（字数は句読点、記号、符号を含みます）。〔解答用紙記述〕

報道に携わる者は大手の会社で働く

ⅠⅡ5字

であつても、たまたまスマホで出来事を録画している目撃者で

あつても、

ⅡⅡ7字

の重要性を銘記する必要がある。現在、ジャーナリズムが不安定になったことやテクノロ

ジの発達によって、社会を支える公共広場はばらばらに分かれてしまった。そのため、

ⅢⅡ8字

を共有でき

るか否かは民主主義を守る根幹に関わっているのである。

(七) 本文の内容に合致するものを、次の1～8の中から二つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、三つ以上マークした場合は0点とします。〔解答用紙マ2〕

- 1 報道機関のスタッフの構成は、近年バランスのとれた理想的なものになってきている。
- 2 筆者たちはジャーナリズムの目的が自明のものとして共有されなくなっていることを憂慮している。
- 3 事実に基づかない主張をくり返して強権を発動する政治指導者に対する厳しい批判が世界を動かすようになってきた。
- 4 テクノロジーが急速に発達してくると、その変化に呼応して古びた原則のモデルチェンジを図っていくことが必要になってくる。
- 5 ジャーナリストたちはテクノロジーが更新されるたびに新しい習慣を身につけて、報道するための技術力を向上させるべきである。
- 6 現在、ジャーナリズムの経済的基盤は揺らいでいるが、これはインターネットの発達によって、広告収入が不安定になっているためである。
- 7 インターネットにさまざまな情報が流通している中で、ジャーナリストとして重要になってくるのはそれらの情報を分析して批評することである。
- 8 筆者たちは、文化が急速に変化していく中だからこそ古くからの原則に立ちもどって変化のスピードをゆるやかにすること、ジャーナリズムを守ることができると考えている。

二 次の文章は、本文中に出てくる映画『うたうひと』をはじめ、多くの作品を手がけている映画監督・濱口竜介によるものです。これを読んで、後の問題に答えなさい。(配点四十五点)

^A 剥き身のままの現実を語ることは、それを語る側にも、受け取る側にも大きな苦痛や負担となる局面は往々にしてあり、単なる「語り」ではない「騙り」^{かた}が、つまりフィクションへの転換が必要になることがある。そのことを私に教えてくれたのは民話研究者の小野和子さんだ。小野さんには「東北記録映画三部作」(酒井耕との共同監督)の第三部『うたうひと』に民話語りを聞き取る聞き手として出演いただいた。四十年以上も東北地方の民話を聞き歩いてきた小野さんは映画冒頭近くで、「猿の嫁ご」という民話について語る。民話の¹アラスジはざつとこうだ。

山に田を持つ百姓が、田の水やりに苦勞をしている。田に水をかけてくれるなら娘をやってもいいと百姓がひとりごちると、そこに猿が現れる。猿はあつという間に田に水をかけてやる。百姓は猿に、娘を嫁にやることを約束する。翌朝、上の娘と真ん中の娘には拒絶されるが、末娘は父の約束したことだからと、山に住む猿のところに嫁に行く。ある日、末娘が父は餅が好きだと言うと、猿は餅についてそれを父のところに持っていこうと言う。末娘は猿の背に餅の入った臼²を結びつけて実家に向かう。その途中で、持っていけば父が喜ぶと言って川端の木の上に咲いた藤の花を指差し、猿に取りに行かせる。しかし猿と臼の重みで木の枝はポッキリと折れて、猿は川に落ちる。猿は嫁を「後家」にしてしまうことを案じる句を詠みながら、川に流され、沈んでいく。末娘は発句を聞いて「ばか猿やあい。だれえ、後家になるつけやあ」と言い放ち、そのまま実家に帰っていく。

小野さんの見解は、その著書『あいたくてききたくて旅にでる』(PUMPUKES 二〇一九年)により詳しく記されている。民話を聞き歩く旅を始めて間もなかった小野さんは、この話を聞いて「猿がかわいそうだね」と語り手の老婆に告げた。「そんなこと考えたことなかった」と答えた語り手は、自身の過去を語り始める。自分が山を越して嫁に來たこと、^{しゅうとめ}姑との^アり合いが悪くて実家に逃げ帰りたいと何度となく思ったこと、しかし姉妹の縁談への悪影響を考えて耐え忍んだこと。そして「田に水を引くこと」が山の上に住むような貧乏百姓にとっては死活問題であったということ。小野さんはここまで

聞いて、猿は「田の水引きを可能にすることと引き換えに娘を取り上げる」³権力者のアンユである可能性に思い至る。現実において語り手を襲った幾つもの理不尽を、物語のなかの末娘は自力で **イ** ね返していく。「ばか猿やあい。だれえ、後家になるっけやあ」と一段と声高に言い放つ語り手の声に彼女が「本当にやりたかったこと」を小野さんは聞き取る。その後も聞き歩きの旅を続けながら、 **P** な民話の根幹にはいつも「切れば血の吹き出すような」生々しい現実があるということの確信を深めてゆく。

『うたうひと』のための取材をしているとき、小野さん^Bは現代の語り手が聞き手の関心の希薄化に伴って、「語り」を変形させてしまうことに繰り返し危惧を示された。エンターテインメントやメディアの発達した現代において、民話の主な聞き手であった子どもたちはもはや民話に十分な注意を払うことができない。もしくは、民話の展開のある種の不条理に対して、付き合うに足る「リアリティ」を感じることができない。語り手はこの反応を受けて、その関心を取り戻そうと聞き慣れないであろう言葉の説明を加えたり、時には展開や結論そのものを変更してしまうことがある。一見、穏当な対応にも思えるこの状況に対して、小野さんが「お話がかわいそう」と言ったことは強く印象に残っている。口承の民話はただの、現実離れた **P** な物語ではない。それは体を寄せ、口と耳を寄せて語った身体そのものの記憶であり、その裏には土地や暮らしにまつわる記憶が、つまりは「切れば血の吹き出すような現実」が張りついているのだ。

「物語り」自体が受け手の関心のありようを織り込みつつ成立していることは確かである。民話の語り―聞き場の例を取れば、それを支えているのは聞き手側の関心だと言ってよい。聞き手が語りに対して十分な関心を注ぐことによって、物語世界が「結界」のように語り手と受け手を包むことになる。逆に関心なきところにこの「場」は **ウ** ち現れない。このことは、目の前に受け手がいないような同時的でない「物語り」においても同様だ。一般論として語り手は、受け手の関心のありようを ⁴カンアン⁴せずには物語を構築し得ない。このことはほとんど必然的に、物語のかたちを因果関係の連鎖へと導く。「事象Aを受けてBが起こり、Bの結果としてCが生じる」ように因果を連鎖させることで、語り手は受け手の関心が持続するように図る。これらの事象の組み合わせ方次第で、受け手の反応をある程度、調整可能であることもまた **エ** めない。語り手が受け手

に応じて「語り方」の変更を試みるのもこのことに由来する。ただ、その変更によって、物語の根であるところの「現実」とのつながりが断たれてしまうのであれば、物語は存在意義を失うことになるだろう。

不条理な現実に直面させられた者は「どうしてこんなことが起きた」と問いかけざるを得ない。何でこんなに苦しいのか。何でそれに耐えなくてはならないのか。なぜ私や、私の愛する人が、特にその苦難を被らなくてはならないのか。この問いかけに答えや解決が与えられることは基本的にはない。このわからなさⅡ不条理こそが「物語り」の動因となることがある。不条理は物語のなかで、原因と結果のギャップとして現れもする。そのことであえて現実を生きたことの切実な感覚を物語に与えることがある。因果間のギャップは語りを失敗させる可能性も孕みつつも、それを飛び越えるように、語り手が受け手を誘っているとも言える。その不条理をなお信じ、物語の世界をあらしめるよう。

再び小野さんが『あいたくて』で語るエピソードを引いてみる。民話を求めて訪れた宮城県の浜辺の村で、小野さんは太平洋戦争におけるガダルカナル島での戦いの生き残りだと言う老漁師と出会う。「昔話を知りませんか」と尋ねる小野さんに、この男性は自分がガダルカナルで見た夢の話をする。極限的なキガ状況⁵のなかで、食料を巡って起こる仲間 オ れにも疲れた男性は翌日の戦いで死ぬことを覚悟する。その夜、夢の中で祖母が出てきて、男性に大福餅を腹いっぱい食わせてくれた。その夢はそれから毎晩続いた。朝起きても腹が満たされ、力も漲^{みなぎ}った彼は、仲間を助け、戦闘にも生き残って、郷里へと帰ってこれたのだと言う。老人は小野さんの顔をのぞき込んで「あんたはおれの話信ずるか。信ずるなら昔話も語るよ」と言った。小野さんは「信じます。信じます」と答える。

大福餅の夢が、現実に腹を満たすことは不条理である。しかし、この不条理は老人にとって必要な物語であった。不条理が物語と受け手との関係を断ち切るように働くことは確かにある。関心が完全に失われてしまえば、物語はこの世で居場所を失ってしまう。そのとき語りの形を変えることも一つの方法だ。しかし、変えてしまった途端にその物語が存在理由を失ってしまうのだとすれば、語り手がなすべきことは受け手のインスタントな納得を求めて「説明」を行い、このギャップを因果で埋めることではない。ある覚悟を持つことだ。自分が語るべき物語を語ること。生き血の通った「現実」と「物語」を切り離さないこと。

一方で、小野さんの挿話は物語に対して、受け手ができることを明瞭に示している。語り手の覚悟に見合うような切実な関心を寄せること。その感覚が、私たちがこの世界で物語を求める理由でもある。

(濱口竜介「物語りについて」、「他なる映画と2」所収による)

(注) 結界Ⅱある領域を聖域として区切ること。

〔問題〕

(一) 傍線部1～5の片仮名を漢字に直し、漢字はその読みを平仮名の現代仮名遣いで、解答欄に記入しなさい。なお、2は訓読みを記入すること。〔解答用紙記述〕

(二) 空欄ア～オに入るもつとも適切な漢字一字を、解答欄に記入しなさい。ただし、同じ漢字は入りません。〔解答用紙記述〕

(三) 空欄Pに入るもつとも適切な四字熟語を、次のa～eの中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、空欄Pは二箇所あります。〔解答用紙マク〕

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| a | 無味乾燥 | b | 天衣無縫 | c | 妖怪変化 | d | 荒唐無稽 | e | 当意即妙 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|

(四)

傍線部Aに「剥き身のままの現実を語ることは、それを語る側にも、受け取る側にも大きな苦痛や負担となる」とありますが、「大きな苦痛や負担となる」根本的な理由は何ですか。本文全体で示されている「現実」がどのようなものを踏まえて、その説明としてもっとも適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マク〕

1 語る側にとっては、いくら考えても理由が思い当たらないか、打開策が見出せない過酷な現実が、何の緩衝材もないまま受け手に伝えられてしまうから。

2 語る側がどうしても隠しておきたいと願う要素が潜んでいても、受け取る側にはすべてが明瞭であるか、容易に見抜ける現実にはすぎないと感じられるから。

3 語る側ではあらゆる手を尽くして衝撃を緩和しようとしても、受け取る側からすれば目を背けざるを得ないか、心の傷になりにかねない現実のままだから。

4 語る側にすれば支配者の横暴か、共同体の風習がひき起こした深刻な現実が、受け取る側にとっては善意の存在を襲った悲劇として理解されるだけだから。

5 語る側がどれほど言葉を尽くして切迫した現実を解き明かしても、受け取る側にとってはまったく想像できないか、遠い昔の出来事にしか思えないから。

(五) 傍線部Bに「小野さんは現代の語り手が聞き手の関心の希薄化に伴って、『語り』を変形させてしまうことに繰り返し危惧を示された」とありますが、「『語り』を変形させてしまうことに」に対して「危惧」が表明された理由とは何ですか。次の文章は、本文の論旨を踏まえて、それを説明したものです。空欄Ⅰ～Ⅲに入るもつとも適切な箇所を、本文の中から指定の字数でそれぞれ一つ抜き出して解答欄に記入し、この文章を完成させなさい（字数は句読点、記号、符号を含みます）。

〔解答用紙記述〕

民話に限らず、概して各種の物語には、

ⅠⅡ7字

への変形によって受け手をひきつけようとする傾向があ

る。しかしそのような変形は、物語の背後に潜む

ⅡⅡ10字

を消し去ってしまい、後には

ⅢⅡ9字

をもたらす説明だけが残されて、多く人々の安易な興味をみたすだけだから。

(六) 傍線部Cに「物語が存在理由を失ってしまう」とありますが、「物語」の「存在理由」とは、どのようなものですか。本文全体の主旨を踏まえて、その説明としてもっとも適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙17〕

- 1 現実の不条理を、幻想的な仕掛けの物語に変化させれば、受け手の態度が和らぎ、差し迫った状況に置かれた語り手の体験が受け入れやすくなるというもの。
- 2 現実の不条理を、更に増幅した物語に変容させれば、受け手の理解力が高まり、イメージするのが困難だった語り手の体験が実感できるようになるというもの。
- 3 現実の不条理を、飛躍を含んだ特性を損なわずに物語に変換すれば、受け手の側の態度次第で、抜き差しならない語り手の体験に誘い込まれるというもの。
- 4 現実の不条理を、わずかなユーモアをたたえた物語に置き換えれば、深刻すぎる語り手の体験が、世代の垣根を越えて受け入れられるようになるというもの。
- 5 現実の不条理を、忠実に再現した要素を多く含む物語に転換すれば、受け手の受容能力に応じて、波乱に富んだ語り手の体験が体得可能になるというもの。

三 次の文章は、『曾我物語』の一場面です。父親の敵で源頼朝の家臣である工藤祐経への敵討ちを兄の五郎と計画していた十郎（曾我祐成）は、恋人で遊女の虎（虎御前）を伴って母親が住む曾我に向かう途中の宿で、敵討ちの本心を虎に打ち明けます。嘆き悲しむ虎に対して、十郎が返答するという場面です。これを読んで、後の問題に答えなさい。（配点四十点）

十郎これを聞きて、「いたくな嘆き給ふな。人もこそ聞け。かつは、これを形見とも見給へ」と、鬢の髪を切りてぞ取らせける。虎はこれを小袖の褌に引き入れて、また、うち伏してぞ焦れける。

「今夜ばかりの手枕に、千夜を一夜に重ねばや」と語り合はするほどもなく、夏の夜の習ひとて、閑路の鶏も鳴き、東雲やうやく明け行けば、はや後朝になりけり。虎は泣く泣く、

いた間より別れて後の悲しきは誰に語りて月影を見ん

十郎も涙ながらに、

厭ふとも人は忘れじ我とても死しての後も忘るべきかは

さてあるべきことならねば、虎は大磯へ帰らんとしけるが、上着の綾の小袖を脱ぎつつ、「これを殿の膚の小袖に着替へ給へ。我が身を離さぬ形見とせん」と言ひければ、十郎喜びつつ、日ごろ着馴れし目結の小袖にぞ着替へける。さて、葦毛の馬に貝鞍置きて引き出だし、十郎、縁の上に立つて、虎をば掻き懷きてぞ乗せける。「我も少し送りまゐらせん」とてうち出でける。十郎申しけるは、「この馬ばし此方へ返し給ふな。三年が間、一月に四、五度、十度も通ひしに、馬替れば鞍これなり。鞍替れば馬これなり。留めて X に見給ふべし。さて、道は中村通りを行き給へ。大道を行きて、人にばし見え給ふな。祐成通ふとは皆人知れり。上下の人の見知る者もありなんに」とぞ申しける。

頃は建久四年五月下旬の頃なるに、もの憂き今朝の空の色、折節五月雨うちしきり、心の暗も晴れやらず。裾は露、袖は涙にしほりつつ、「由なかりける契りかな。結びも果てぬものゆゑに、永き思ひとなることよ。中有の旅もかくやらん」と馬に任せて行くほどに、曾我と中村の境なる山彦山の峠に着く。十郎、馬をひかへて、「今少しも送りまゐらせたく候へども、今朝、

疾く出で立たんと言ひしあひだ、五郎もさだめて今は来たるらん。互ひに名残の悲しさは、いつとても同じことなるべし」とて、暇を乞ひてぞ別れける。さても、この世にて相見んことも、ただ今ばかりなれば、しひて名残の惜しければ、別れの涙に掻き暮れて、駒もえこそ進めやらす。虎も思ひやる方なくして、「しばし」とばかり言ひつつ俯しぬ。さても尽きせぬことなれば、十郎、心強くも引き返しければ、虎はあまりに悲しく覚えて、手を挙げてぞ招きける。力及ばず、また引き返し、駒を並べて立ちけれども、互ひにものも言はず。

やや暫くありて、十郎、涙をおさへて申しけるは、「心の内、ただ推し量り給ふべし。さればとて、ここに日を暮らすべきにもあらず。偏に、一仏浄土に生まれ合はんと祈り給ふべし。来世をこそ頼むべけれ」とて、

紅のふり出て嘆く Y には袂よりこそ色まさりけれ

虎、

紅の恋の Y のいかなれば果ては朽葉と袖をなすらん

かくて時も移りければ、力及ばず彼方・此方へ引き別れぬ。互ひに後ろを顧みて、共に涙に咽びける。やうやく別れ行くほどに、山さへ中に隔りて、そなたの空の恋しさは、いづれも同じ心にて、夢の道行く心地して、虎は大磯に帰りつつ、衣引き被き伏しまろび、泣くより外のことぞなき。傍らの君どもこれを見て、「いかに、虎御前は十郎殿に捨てられ給ふか」と言ひければ、「捨てらるるは世の常の習ひなり。これはまた」とばかり言ひも果てず、ただ引き被きてうち伏しぬ。

〔曾我物語〕による

(注) 関路の鶏も鳴き＝朝を告げる鶏の声のこと。『史記』の故事による。いた間＝板葺き屋根の隙間や裂け目。大

磯＝現在の神奈川県の名。膚＝肌着。貝鞍＝貝で装飾された螺鈿の鞍。ばし＝区別を表し、強調する副

助詞。など。なんか。中村通り＝東海道の裏街道として利用された大磯へと続く道。大道＝東海道。上下

の人＝すべての人々。ここでは行き交う人のこと。建久四年＝西暦一九三年。しほりつつ＝濡れて張りのな

い状態になって。結びも果てぬⅡ添い遂げられない。中有の旅Ⅱ冥途への旅。あひだⅡので。一仏浄土にⅡ同じ浄土に。

〔問題〕

(一) 傍線部1～3の漢字の訓読みを、平仮名の現代仮名遣いで、それぞれ解答欄に記入しなさい。〔解答用紙記述〕

(二) 傍線部A～Fの本文中の意味としてもっとも適切なものを、それぞれ後の1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マク〕

A 月影

- 1 月の光に照らされた人
- 2 月の光が当たらない所
- 3 部屋に差し込む月の光
- 4 雲に隠れている月の姿

B 忘るべきかは

- 1 忘れてしまおう
- 2 決して忘れない
- 3 早く忘れてくれ
- 4 忘れて欲しいか

C さてあるべきことならねば

- 1 本来はしてはならないことなので
 - 2 知らせがまた届くあてもないので
 - 3 あわてて出発する必要はないので
 - 4 そうしてばかりもいられないので
- D 由なかりける契りかな

- 1 無益な二人の縁であったことよ
 - 2 守れない約束をしてしまったな
 - 3 ひかれ合った理由はわからない
 - 4 見返りは要らないのだったかな
- E さだめて今は来たるらん

- 1 きっと今頃到着しているだろう
 - 2 今から向かうように決めてある
 - 3 すぐに来るように伝えて欲しい
 - 4 もう着いていなければならぬ
- F しひて

- 1 次第に
- 2 続けて
- 3 無性に
- 4 重ねて

(三) 二重傍線部 a～c の文法的説明としてもっとも適切なものを、次の1～6の中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、同じ選択肢を二回以上使うことはできません。〔解答用紙㉒〕

- | | | |
|----------|---------------|-------------|
| 1 動詞 | 2 形容詞の活用語尾の一部 | 3 形容動詞の活用語尾 |
| 4 過去の助動詞 | 5 完了の助動詞 | 6 断定の助動詞 |

(四) 空欄 X に入るもっとも適切な漢字二字の語を、本文中から抜き出して解答欄に記入しなさい。〔解答用紙㉓〕

(五) 空欄 Y に入るもっとも適切な語を、本文中から抜き出して解答欄に記入しなさい。ただし、空欄 Y は二箇所あります。

〔解答用紙㉔〕

(六) 本文の内容と合致するものを、次の1～6の中から二つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、三つ以上マークした場合は0点とします。〔解答用紙㉕〕

- 1 十郎は鬢の毛を切って形見として虎に渡そうとしたが、虎は受け取らなかった。
- 2 虎は自分の上着の綾の小袖を十郎に渡し、形見として肌着にするように言った。
- 3 十郎は馬に鞍を乗せた後、虎を抱きかかえて同じ馬に乗り、そのまま出発した。
- 4 十郎が虎の元に通った三年間、十郎は常に同じ鞍を使い、同じ馬に乗っていた。
- 5 山彦山の峠に着いた際、十郎はそこで別れようとしたが、虎に引き止められた。
- 6 あまりに別れがたかったので、十郎は大磯まで虎を送ってから曾我に向かった。

(七) 波線部に「『捨てらるるは世の常の習ひなり。これはまた』とばかり言ひも果てず」とありますが、虎は何を言おうとしていたのですか。その内容としてもっとも適切なものを、次の1～4から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マク〕

- 1 同じ相手に再び捨てられたので、なおさら悲しい。
- 2 信じていた人に裏切られたので、胸の痛みが違う。
- 3 今生の別れなので、捨てられるよりはるかに辛い。
- 4 捨てたのは自分なので、申し訳ない気持ちが強い。

(八) 『曾我物語』で主に描かれている時代ともっとも近い時代に成立したと考えられる作品を、次の1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マク〕

- 1 宇治拾遺物語
- 2 落窪物語
- 3 源氏物語
- 4 大和物語

四 次の文章は、漢の文人司馬相如と、富豪卓王孫の娘文君の恋物語です。これを読んで、後の問題に答えなさい。(配点二十点)

一坐尽傾。酒酣、臨邛令前奏琴曰、「窃聞、長卿好之。願以自娛。」相如
辭謝、為鼓一再行。是時、卓王孫有女文君新寡、好音。故相如繆与令相重、而
以琴心挑之。相如時從車騎、雍容閑雅、甚都。及下飲卓氏、弄琴、文君窃從戶窺、心
說而好之、恐不得當也。既罷、相如乃令侍人重賜文君侍者通慇懃。文君夜
亡奔相如、相如与馳歸成都。家徒四壁立。

(『漢書』による)

(注) 臨邛 現在の四川省の邛峽。 令 知事。 司馬相如の友人王吉のこと。 長卿 司馬相如の字。
たりと和らいで風雅な。 侍人 従者。 成都 現在の四川省の省都。 雍容閑雅 ゆつ

〔問題〕

(一) 傍線部 a「寡」、b「挑」の意味としてもっとも適切なものを、それぞれ後の 1～4 から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。(解答用紙 ☐)

a 寡

- 1 気が強かった
- 2 病弱であった
- 3 夫を亡くした
- 4 お金を儲けた

b 挑

- 1 気を引こうとする
- 2 冗談を言おうとする
- 3 争いを仕掛けようとする
- 4 困難に立ち向かおうとする

(二) 傍線部 c「乃」と同じ読みをする漢字を次の 1～4 の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。(解答用紙 ☐)

- 1 縦
- 2 苟
- 3 便
- 4 況

(三) 傍線部 d「令侍人重賜文君侍者」は、「侍人をして重く文君の侍者に賜はしめ」と読みます。この読み方に従って解答欄に返り点を付けなさい。ただし、送り仮名を付けてはいけません。(解答用紙 ☐)

(四) 文章の内容と合致しないものを、次の1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。(解答用紙 ☐)

- 1 司馬相如は王吉と図って、わざと重々しくふるまった。
- 2 卓文君は、司馬相如と自分はお似合いだと思っていた。
- 3 司馬相如は遠慮していたものの、琴を一、二回演奏した。
- 4 司馬相如と卓文君が住んだ成都の家は、粗末なものだった。

(五) 『漢書』と並び称される、司馬遷が著した史書を、次の1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。(解答用紙 ☐)

- 1 史記
- 2 三国志
- 3 十八史略
- 4 白氏文集